

ソ連の農業信用制度

丸 毛 忍

農業信用政策の転換

ソ連の農業信用についてはわが国ではほとんど知られていない。邦文で書かれた文献も皆無に近い。これはソ連のコルホーズ、ソフホーズの発展に果たした役割が、他国に比してごく小さかったせいであろう。だが、一九六五年以来いわゆる「経済改革」の進行、コルホーズ、ソフホーズの企業としての独立性の向上に対応して、農業資金の供給は国家予算支出から銀行信用の方向に漸次切り換えられつつあり、農業信用の役割は、改めて見直されねばなくなっている。とりあえずソ連の新しい農業信用制度の概要をノートの形でとりまとめておきたい。

《ノート》 ソ連の農業信用制度

従来、ソ連の農業信用の役割が軽視されてきたのは、ほぼ次のような事情のためであったと考えられる。

スターリン時代、例えば一九四〇年には約四千のソフホーズと二四万のコルホーズが農業生産を引き受けていた。当時、ソフホーズは新しい大型技術を導入した試験農場ないし模範農場としての性格が強く、農業生産においてはほとんど実質的な役割を果たしていなかった。ソフホーズは国营企業の一形態なので、設立資金や投資は国家予算から支出され、返済の必要はなかったが、新技術の導入、利用はしばしばその後の企業採算を無視して行なわれ、農産物の引渡価格はコスト以下であり、労働者には一定の賃金を支払わねばならなかった。この通り、ソフホーズは最初から独立採算を建前とする企業ではなく、不足資金の調達について銀行信用が使われていなかったわけではないが、それは財政資金の役割に較べると問題にならなかった。

コルホーズは生産協同組合の一種であり、ソフホーズの場合のような国家予算からの支出は得られず、投資や流通資金の調達は自己資金か銀行信用によらねばならなかった。だが、コルホーズで使用する大型機械の大部分は国家機関であるMTS（機械トラクター・ステーション）の所有であり（コルホーズにたいする国家からの間接投資とも解されよう）、農産物の国

家への納入価格はコストを割る場合が多かったが、コルホーズ農民への労働報酬は総生産高から総支出を差し引いた残りを主として現物の形態で分配すればよかったので、投資や流通資金の銀行信用への依存は予想外に少なかった。その上、コルホーズが銀行信用の返済に堪えず、債務が帳消しにされたり、支払い延期が認められることがしばしばであった。本来の意味の銀行信用とはいいいがたいものであっただろう。

このように農業信用の役割が小さかったのは、一言でいえば、極端な重工業優先政策（農業余剰の一方的な工業移転）のもとでソフホーズ、コルホーズが企業として自立できず、財政資金の役割が大きかったためである。

その後事情はじょじょに変化した。一九五〇年前後からコルホーズは合併を通じて規模を拡大するとともに、現在までに三万六二〇〇に減り、逆にソフホーズは新設およびコルホーズの吸収を通じて一万二七八三に増加し、農業生産の半分近くを担当するほどになっている。一九五八年にはMTSは廃止され、その機械はコルホーズの所有に移り、同時に農産物の調達は国家買付制一本に整理され、コルホーズ、ソフホーズに下りてくる中央からの計画指令は、買付目標達成を中心にかなり簡単なものになった。さらに、フルシチョフの失脚後は、農産物の国家買付計画は長期にわたって固定され、五〇%のボーナスのつ

く超過買付制を設け、農産物の価格も引き上げられた。また、一九六五年からコルホーズの所得税は総収入にでなく純収入にたいして課せられることになり、⁽¹⁾六六年にはコルホーズは従来の労働日基準で計算した現物中心の支払制でなく、貨幣を主とする保証労働支払制を全般的に採用し、⁽²⁾六七年からソフホーズにたいする補助金は廃止され、⁽³⁾ソフホーズは完全な独立採算制に移るための実験にはいった。

このような措置は「経済改革」の動きの農業面での反映であり、当然、農業信用の役割を引き上げることになった。

コスイギン首相は一九六五年九月の共産党中央委員会総会の報告で、信用に関する新方針を明らかにした。「現在、投資は国家予算から無償で行なわれている。企業は受けとった資金を返済する義務がないから、企業指導者としては、企業の改造にかほどの資金を要するか、追加投資がいかなる効果を与えるかについて関心が薄い。したがって最小の投資で新しい職場や施設を建設し、適時に稼働させ、より早く計画で定められた能力を開発するためには、経営指導者が建設資金のもつとも経済的な利用について配慮するような制度が必要である。この課題の解決方法の一つは、基本建設資金の無償供与から長期信用への移行である。信用制はまず既存企業の投資に適用されよう。新建設に關しては、その費用が比較的短期間に回収されるものに

ついで長期信用を供与するのが合目的である。企業に配分される流動資金の正しい経済的利用は生産効率を上げるために重要な意義をもっている。今のところ流動資金の不足はどんなものでも国家予算によって補填されている。だから、企業に配分された流動資金の使用に対し企業が本質上なんらの経済的責任を負わないとするならば、真の経済計算について語るわけにいかない。今後、予算による企業流動資金の無償供与をやめ、必要な場合にはこの目的のために一時的な信用を供与することが考えられる。この方法を採用すれば、企業は配分された流動資金の使用について経済的な態度をとるであろう。⁽⁴⁾」。

これに応じ同年一二月には「コルホーズの信用手続きの改善について」の大臣会議決定が出て、コルホーズが農産物調達機関を経由する間接信用から直接銀行信用へ移る必要が勧告され、さらに、一九六七年四月には「国民経済の信用供与と決済の将来の改善および生産刺激についての信用の役割の向上のための諸施策」が発表されて、コスイギン首相の上記の声明は漸次実施に移されることになった。農業においても信用の役割が増大し、銀行は信用供与と金利をつうじて、農業生産および農産物の流通により大きな影響をあたえるようになった。

注(一) указ Верховного Совета СССР «О подходящем налоге с колхозов» от 10 апреля 1965г

(2) «О повышении материальной заинтересованности колхозников в развитии общественного производства», Постановление ЦК КПСС и Совета Министров СССР от 16 мая 1966г. 保証労働支払制によれば、豊凶にかかわらず、毎月一定の貨幣がコルホーズ農民に支払われる。労働者の賃金へ近づく第一歩とされ、すでに多くのコルホーズで実施されていた。

(3) «О переходе совхозов и других государственных сельскохозяйственных предприятий на полный хозрасчет», Постановление ЦК КПСС и Совет Министров СССР от 14 апреля 1967г.

(4) Доклад т. А. Н. Косыгина «Об улучшении управления промышленностью, совершенствовании планирования промышленного производства», *Правда* 28/сентября 1965г.

(5) «Об улучшении порядка кредитования колхозов», Постановление Совета Министров СССР от 17 декабря 1965г.

(6) «О мерах по дальнейшему улучшению кредитования и расчетов в народном хозяйстве и по-вышению роли кредита в стимулировании про-

изводства, Постановление Совета Министров СССР от 3 апреля 1967г.

信用の意味と国立銀行^{ナショナル・バンク}の役割

社会主義のもとでも信用が必要なのは、商品生産と貨幣経済があり、とくに貨幣が支払い手段として機能しているからであることはいうまでもないが、資本主義の信用と異なる特徴は、それが生産手段の社会的所有を基礎とし、国民経済計画に対応して発展しているところにある。信用はやはり企業のフオンドの循環に条件づけられており、ここでも多くの企業や国民経済部門で生産物の生産期間と流通期間が異なるので、当然どこかに一時的な遊休資金が生ずれば、他に資金にたいする追加需要がおこるわけだ。「社会主義の信用は貨幣関係の体系であり、これによって企業、機関、国民の一時的な遊休資金の動員と、拡大再生産その他の社会主義経済の必要をみたすために要返済の条件での資金の供与が計画的に実施される」⁽¹⁾。

社会主義の信用はみな銀行信用の形態をとる。資本主義のような商業信用、企業間信用による商品取引は行なわれない。もし商業信用を許すと、各企業の間に資金が無計画に再分配され、銀行による企業活動の統制ができなくなるおそれがあるからである。銀行の供与する信用は短期、長期の二つがあり、前者は

期限一年以内、企業の流動フオンドの形成に参加し、後者は固定フオンドの拡大に貢献する。銀行信用は要返済、期限付かつ一定の財貨による保証を条件とする⁽²⁾。また、資金の用途は計画に対応して定まっており、転用を許さない。この際、企業や機関は計画課題の実際の遂行に応じてのみ信用をうける権利を現実化できることになっている。銀行信用は有料であるが、「社会主義のもとでは、銀行は企業から信用の使用料として純収入の一部であるところの利子をとる」⁽³⁾のだという。利子の大きさは国家が政策的に決定する。

先にものべたように、一九六五年にはじまった「経済改革」は、売上高と利潤を企業活動の主たる指標とするようになり、したがって銀行信用の範囲が拡大され、利子の役割が引き上げられた。以前は企業の流動フオンドの不足は返済を要しない予算によって補填されたので、企業は過剰在庫に責任を負わなくてもよいたためなるべく多くの流動フオンドを得ようとし、また投資の大部分が返済を要しない国家予算で行なわれたので、企業は固定フオンドの効率的利用に無関心であった。これらが短期、長期の銀行信用に改められ、かつ企業の成績に応じて利子に差がつくことになったので、企業の独立採算は、勢い一層強化されざるを得なくなったのである。

ソ連の銀行は国家的所有であり、銀行の機能は国家の独占で

ある。ソ連の銀行には国立銀行と全連邦基本投資銀行および外国貿易銀行、ほかに国家労働貯蓄金庫がある。国立銀行は債券銀行であり、短期信用の供与を行ない、かつ決済の中心となっている。全連邦基本投資銀行は主として、農業その他のをのぞく国民経済各部門の投資にたいする長期信用の供与を行なう。外国貿易銀行は外国貿易に関する為替・現金業務をあずかり、国家労働貯蓄金庫は主として一般市民の預金を取り扱う。農業にたいする予算の配分や長期信用の供与は従来農業銀行が行なっていたが、一九五九年廃止されてその業務は国立銀行に移管され、農業信用局とコルホーズ信用局とが主としてこれに当たっている。

ソ連の信用制度の中心であり、農業信用の担当者である国立銀行の役割について少しふれておこう。

国立銀行は唯一の発券銀行であり、現金計画、信用計画の決定に応じて通貨の発行限度額を決める。ソ連の通貨発行限度額通貨流通高は発表されていない。ソ連の通貨単位はルーブルで、ルーブルの金含有量は純金〇・九八七四二グラム（一九六一年一月）、対外公定相場はルーブル〇・九ドルとなっている。だが、ルーブルの金価値は名目的なものにすぎず、金との交換性はない。国外への持ち出しと輸入は禁止されている。国立銀行の現金計画は、国民貨幣收支バランスにもとづいて四

半期別、月別、かつ中央から末端に向かって地域別に作成され、大臣会議によって確認をうける。ソ連の企業間決済はほとんど非現金によっており、国立銀行の窓口から払い出される現金の八〇％が労働者・勤務員の賃金俸給であることは、このような現金計画による通貨調節を可能にしているといえる。

国立銀行は企業、機関、コルホーズなどに直接短期信用を供与し、資本主義下の商業銀行に似た機能を果たしている。一九五九年四月からはさらに農業、協同組合、公共事業にたいする長期信用の供与を行なうことになった。ただし、国立銀行の信用業務の主体は依然短期信用の供与にあることはいうまでもない。国立銀行の信用業務は同行の作成する信用計画にもとづいて行なわれる。計画は各省庁（企業を含む）から国立銀行に提出される融資申請にもとづいて四半期別に作成され、国家計画委員会を経て大臣会議で承認され、指令的性格をもつ。信用計画が年間計画でなく四半期計画になっているのは、短期信用が普通三ヵ月ないし六ヵ月という季節的性格をもつからである。短期信用の財源は①国立銀行の自己資金（定款資金、準備基金、当該年度の未配当利益金）、②国家予算資金（国立銀行は国庫金の出納業務を行なっている）、③決済勘定資金（経済機関の決済勘定残高、コルホーズの当座勘定残高）、④当座勘定資金（財政機関、公共機関の当座勘定残高）、⑤通貨発行である。

国立銀行は以上の財源から信用計画にもとづいて融資限度内^{リミット}で企業、機関に短期信用を供与する。融資は信用計画の定めた金額の範囲で行なわれるから、限度は個別的に決まっている。

短期信用の対象は大別すると、①商品、原材料の基準超過在庫にたいする貸付、②季節的生産費の貸付、③決済信用の三つからなる。信用供与の条件が先にもふれたように、要返済、期限付、財貨による保証、使途付かつ有料であることはいうまでもない。

国立銀行は、また国家計画に含まれていない基本投資、具体的には、①新技術の導入貸付および、②コルホーズへの長期貸付、③消費組合への貸付、④個人住宅建設のための貸付などの長期信用の供与を行なっている。また、「経済改革」の進行にともない国立銀行の差別融資、決済制度の改善、利子の重視、融資枠の拡大を実施したが、これらの問題については農業信用制度の項でもう一度ふれたい。

利子は一九六六年現在で預金の場合、コルホーズの当座勘定一・五%、住民の預金二・三%、貸付の場合、計画貸付二・〇%、臨時貸付六・〇%、決済信用一・〇%、延滞貸付八・〇%であるが(利子率は、その後大幅に変更されたようである)、今後は利子率はさらに大幅の差が設けられることになる。銀行は独立採算を建前とする。銀行の純収入は受け取る利子額と支

払う利子額および銀行の維持費との差額である。

ソ連では決済は銀行の一口座から他の口座へ資金を振り替える非現金決済と現金決済とで行なわれるが、企業、機関相互間は主として非現金決済、企業、機関と住民ないしそのグループの間は主として現金決済によっている。企業、機関の口座は国立銀行に集中されており(現場では全連邦基本投資銀行は国立銀行の支店が業務を代行している)、「一企業・一銀行・一口座」の制度になつていたので、決済は簡単である。また信用計画とこの一口座方式によって銀行は企業の経済活動の実態を全体的に把握し得るので、銀行のルーブルによる企業統制はかなり強力に行なわれるはずである。⁽⁵⁾

注(1) Г. А. Козлов и другие. Политическая экономия-Социализм-первая фаза коммунистического способа производства. стр. 255, 1969г.

(2) 事実上、企業間信用に類する行為がかなり広汎にみられるようであり、その防止策が問題になっている。

(3) 信用の「一定の財貨による保証」というのは、生産手段が国有である社会主義のもとでは、担保信用は行なわれないことになっているので、貸付にあたって審査される融資対象の実在、返済の確実性を意味するものにすぎないようだ。

(4) А.Г.Козлов и другие, Там же стр 257

(5) 国立銀行とその子会社 А.А.Посконов и другие,
Кредитно-денежная система СССР, 1967г. стр.
91~203によったところが多い。

農業信用制度とその機能

国立銀行の役割については概略をのべたが、農業信用制度といっても、結局は同行の農業信用局とコルホーズ信用局とが主として行なっている業務内容を解説することになる。

近年農業信用の役割が拡大したことは、例えば、次の事実から知られる。コルホーズは一九六五年生産支出（貨幣前払や保証労働支払の信用を含む）にたいし四八億八〇〇万ルーブルの貸し付けを受けたが、一九六八年は九〇億四〇〇万ルーブル、すなわち一・九倍の貸し付けを受けた。同一期間にソフホーズにたいする信用は三二億三五〇〇万ルーブルから六〇億一九〇〇万ルーブル、すなわち一・八倍に増加した。「農業技術公団」の商業・資材補給活動にたいする信用は、同じく一二億九六〇〇万ルーブルから一八億六八〇〇万ルーブルにのびた。

また、コルホーズの受けた投資用の長期信用は一九六五年の一三億八五〇〇万ルーブルから一九六八年には一・二倍の一七億三一〇〇万ルーブルにふえた。同一期間にコルホーズ連合企

業が自己の建設基地をつくるための信用は七一〇〇万ルーブルから二億一〇〇万ルーブルに達した。ソフホーズは投資用として一九六五年に三七億七〇〇万ルーブルの信用をうけたが、それは一九六八年には四二億ルーブルに増加した。

今日では国立銀行の信用を利用していないコルホーズ、ソフホーズは存在しないという。

国立銀行はコルホーズに生産支出と労働支払にたいする短期信用、投資およびコルホーズ農民の保証労働支払にたいする長期信用を供与する。

コルホーズは以前には、国家に販売する農産物価格の三〇〜四〇％の調達組織による前払と国立銀行の短期貸付の二つのカナルから生産支出および労働支払のため資金を得ていたが、現在は直接銀行信用一本に移っている。この措置がコルホーズの経営における信用の役割を高めたことはいうまでもない。

国立銀行は現在二つのやり方でコルホーズの直接銀行信用について実験を行なっている。一つは単純貸付勘定、もう一つは特別当座勘定の設置である。コルホーズは現在国立銀行に当座勘定をもち、一切の決済、銀行からの借り入れを行なっているが、これ以外に上記のような勘定を設置しようというわけである。

第一のやり方では、国立銀行はコルホーズにたいし、固定資

産部分の不可分ファンドへの納入と補填をのぞく主要な活動の費用支払のために信用を供与する。コルホーズの主要な活動から得た資金は当座勘定にはいり、貸付の返済は債務に應ずる期間に当座勘定から行なう。

第二のやり方では、国立銀行は労働支払の貨幣部分を含め、経営全体として貨幣資金の季節的不足を補填するために、コルホーズにあたる信用を四半期毎に計画化する。計画案は、コルホーズの生産計画と年度報告の指標をもとにしてできた財務計画の収支から出発して、国立銀行が作成する。信用を計画する場合には年度の初めと終わりの貸付残高を決めることが重要である。国立銀行はコルホーズと協力して後者の支出と費用の範囲内で四半期毎に融資限度を決める。第二のやり方では、国立銀行は借入資金の需要全体にたいしてコルホーズに信用を供与することになる。この勘定には、短期貸付による債務がある場合、その決済にあてられるすべての貨幣売上高がはいることになっている。単純貸付勘定の場合は、信用計画や融資限度の決定は当座勘定の方で従来どおり行なわれるものとみられる。

一九六九年一月一日現在、四五〇〇のコルホーズが第一のやり方で、二万九七〇〇コルホーズが第二のやり方で直接銀行信用に移っている。これは全コルホーズの九六%に当たるといふ。コルホーズ信用が財貨だけでなく、コルホーズ農民の労働支払

にまで適用範囲を拡大したことの意味は大きい。信用は流動ファンドの循環の特殊性を一層よく考慮し、コルホーズの財務と計算を積極的に規制し、コルホーズ生産の発展を刺激するものとみられる。

国立銀行は、信用の取得がコルホーズの生産財務計画に予定され、コルホーズ農民総会で承認され、地区農業生産局と地区執行委員会で検討済みという条件、また、その返済が貨幣で保証されているという条件で、コルホーズに信用をあたえる。なお、コルホーズは第一・四半期中に生産財務計画、年度、四半期会計報告を添えて信用取得を申請せねばならない。

コルホーズは一九六六年七月一日から同一範疇の労働者の賃率から出発して、保証労働支払に移ることを勧告されたが、これについては国立銀行から長期信用を受けられることになっている。コルホーズの自己資金が保証労働支払に不足する場合、一九六六―七〇年の期間信用があたえられるが、期限は五年で取得後三年目から返済を開始せねばならない。長期信用の額は保証労働支払ファンドと、生産財務計画でこの目的に充当されることになっている自己資金との差額の範囲で定められる。労働支払にたいする短期信用は、コルホーズの経済能力を考慮した評価水準での支払資金の季節的不足にたいして供与されることになっている。

このほか、コルホーズは投資のために長期信用を受けるが、これは今日では総投資の三分の一に達し、コルホーズの九〇％が長期信用を利用しているという。信用の期限は建設・設備の取得・畜産機械化が最長で二〇年、支払い開始は六年目から、じゃがいも・野菜・果物の加工が六年で支払いは三年目から、専門家の住宅建設が一五年で支払いは五年目から、トラクター・コンバインの購入が八年で支払いは三年目からとなっている。信用供与の期限は近年なくなっており、一九六三年は平均一〇年、一九六五年は平均一五年であった。利子も〇・七五％に引き下げられた。なお、短期信用の利子も一％に下げられている。一九六八年の投資向け長期信用の内訳は、畜舎の建設三三・三％、技術購入二七・八％、住宅・文化施設の建設一三％、発電所、水利施設、その他の生産用施設一六・八％、家畜の購入五・九％、その他三・二％であった。

長期信用は、信用計画にしたがってコルホーズにあたえられる。長期信用計画は共和国、地方、州別にそれぞれの大臣会議州執行委員会が一括確認される。地区ではこの計画は個々のコルホーズについて対象別、施策別に確認される。コルホーズは一月一日までに翌年の長期信用取得の申請を国立銀行に提出せねばならない。国立銀行は申請を検討し、これにもとづいて長期信用計画を作成する。この際には、コルホーズの固定生産

手段裝備の水準、計画に示された農業生産の集約化、特化の政策、立ち遅れコルホーズの経済の向上が配慮される。信用は長期信用計画の承認した範囲で供与される。

コルホーズの建設に信用が与えられる場合には、建設の一覽表と計算評価関係の書類、請負建設の際は請負契約が国立銀行に提出されねばならない。コルホーズと国家ないしコルホーズ連合との間の決済は、実際の仕事の進行に応じてなされ、コルホーズ自身が建設を行なう際には、信用供与は支出項目毎になされ、コルホーズ管理部が同意すれば請負と同じやり方で仕事の進行に応じて与えられる。

信用の具体的な返済期間は承認された期限内に、信用の効果、得られた収入、不可分ファンドへの控除額、以前受けた投資用貸付の支払い、その他個々のコルホーズの財政状態を特徴づける資料を考慮して定められる。コルホーズの年度内投資資金が不足する場合には、年度内の投資財源が支出を越えた時に償還するという条件でコルホーズに短期信用が与えられる。

ソフホーズは大規模な国営の農業企業であり、ながい間投資の大部分を国家予算に依存していた。だが、農業生産の効率を高めるためソフホーズを完全な独立採算制に移す必要が認められ、一九六八、六九の両年で三八〇〇のソフホーズが完全独立採算に移る実験に着手した。これらの農場はコルホーズの買付

価格（ソフホーズの引渡価格よりずっと割高な）で生産物を実現し、自己資金と予算支出をとまなない銀行の長期信用で生産的性格の投資を行なっている。その結果、完全独立採算に移ったソフホーズは収益を高め、物的刺激フオンドへの控除を増加し、日常的な経済活動の権利を拡大した。一九六五年には合計一億ルーブルの赤字企業であつたソフホーズも、一九六八年には一二億ルーブルの利潤をあげた。

ソフホーズは、自己の流動資金でカバーし得ない季節的な生産支出の不足や規程超過在庫については、国立銀行の短期信用を広く利用する。今日国立銀行の信用はソフホーズの流動資金の三〇%におよんでおり、将来その割合と役割はさらに増大する見込みである。ソフホーズの短期信用の利子は二%になっている。

信用の保証、すなわち返済の資金源となるのは、生産支出の場合は今後の生産物の産出、在庫の場合はその価格であるが、それらによる返済の見込みのないソフホーズに信用があたえられないことはいうまでもない。ソフホーズは国立銀行に年次別の生産財務計画と月別の会計報告、貸借対照表および四半期別の信用需要計算書を提出せねばならない。ソフホーズへの信用は国立銀行の四半期別の信用計画のなかにはいるわけである。上記の対象についてのソフホーズへの信用供与はいわゆる特別

貸付勘定からのみ行なわれる。

ソフホーズの会計報告にもとづいて国立銀行は毎月一回信用保証の検査、換言すれば、特別貸付勘定の債務額とソフホーズのもつ自己流動資金の規程超過信用対象の金額との比較を行ない、追加貸付、債務の返還、利子の引き上げなどの措置をとる。完全独立採算に移行したソフホーズは安定した収益をあげ、信用返済をよりよく保証できるので、これらの信用供与は必ずしも融資限度にとらわれず、拡大再生産と関連して生産支出や在庫が増加する場合には限度引き上げの可能な統計数字にしたがつて行なわれる。これらのソフホーズは必ずしも特別貸付勘定を設けなくてもよく、融資限度や保証検査とは無関係に二ヵ月以内の信用をうけることもできる。

完全独立採算に移行したソフホーズもそうでないソフホーズも、新技術および機械化の導入、生産技術の改善、生産過程の合理化と集約化、消費財生産の組織と拡張、副業企業の発展について、固定資本にたいする国立銀行の信用を利用する。信用の期限は三〜六年、返済は追加利潤あるいは上記施策の結果達成された節約からなされる。また、ソフホーズは生産畜および役畜の基本畜群を形成するための信用を受ける。期限は二年である。これらはすでに国立銀行の供与する長期信用にぞくするが、非集中的投資である。

第1表 国民経済、住民にたいする銀行信用（年末残高）

（単位 百万ルーブル）

	1940	1960	1965	1966	1967	1968
短期信用	5,574	42,741	68,012	77,339	87,775	96,789
工業	2,129	14,722	23,572	26,053	30,034	32,388
農業	199	2,886	4,590	5,116	6,712	7,907
うち、コルホーズ	12	666	365	392	717	1,030
運輸通信	74	318	577	668	838	976
建設	45	1,569	3,356	5,245	6,413	7,948
補給・販売	1,055	5,613	7,810	8,653	10,631	11,852
調達	694	3,276	5,285	8,325	8,395	9,454
商業	1,342	13,997	22,070	22,332	23,595	25,371
その他の部門	36	260	749	947	1,157	890
長期信用	832	3,794	6,018	8,096	10,403	12,729
コルホーズ	240	2,378	3,890	5,255	6,729	8,061
住民	115	1,027	809	825	785	725
うち、都市	41	511	242	212	187	166
農村	74	516	567	613	598	559
国営企業・協同組合 企業・機関（住宅建 設協組を含む）	477	389	1,319	2,016	2,889	3,943

ЦСУ СССР, Народное хозяйство СССР в 1968г. стр 779

第2表 生産施策にたいするコルホーズの長期信用

（単位 百万ルーブル）

	1940	1960	1965	1966	1967	1968
年貸付高	87.3	621.2	1,421.8	1,618.8	1,868.8	1,943.3
畜産発展	49.6	333.8	573.2	630.6	635.6	679.2
うち、畜舎の建設と機械化	9.0	195.9	513.2	522.1	543.2	577.3
家畜購入	40.9	137.9	60.0	108.5	92.4	101.9
耕種	18.5	16.2	—	—	—	—
発電所・コルホーズの 電化・ラジオ化	1.3	72.3	91.1	93.9	101.9	87.6
水利建設	2.8	23.5	40.0	40.8	51.0	56.7
肥料購入	11.8	14.6	—	—	—	—
農業機械取得	—	74.2	504.2	440.9	441.3	480.8
その他生産用建設	—	—	84.2	98.6	117.9	146.2
児童施設、浴場	—	—	—	72.5	151.5	165.6
文化生活用建設	—	—	—	—	—	—
コルホーズ住宅建設 （社会フォンド）	—	—	—	29.1	45.1	60.5
コルホーズ農民保証労 働支払	—	—	37.1	172.9	258.0	211.9
その他の施策	3.3	86.6	92.0	39.5	66.5	54.8

注1. ЦСУ СССР, Народное хозяйство в 1968г. стр. 781

2. 1961年1月以後耕種用支出、幼牛、肥料の購入には短期貸付が与えられている。

さらに、完全独立採算に移行したソフホーズは、コルホーズのために定められたと同一期間および条件で、生産的集約の集中投資にたいする国立銀行の長期信用を受ける。集中投資は三つのグループからなる。第一は、機械設備の取得、生産用建設などへの投資であり、利潤、償却控除、その他の自己資金、長期信用を財源として行なわれる。ソフホーズの集中投資にたいする国立銀行の長期信用はこのうちにはいる。第二のものは、生活・文化・社会面の施設、土地改良、灌漑、送電線などの建設への投資であり、国家予算から支出される。第三のものは、新企業、養鶏工場、水耕栽培コンビナート、豚・牛乳・卵生産の総合施設の建設のための投資であり、国家予算および他の企業から再分配された利潤によって行なわれる。

最後に、銀行信用における農業の地位を明らかにするために第一表をみると、長期信用ではコルホーズの割合が圧倒的である。コルホーズの長期信用の内容は第二表のとおりだが、機械設備の取得・改善および保証労働支払関係のものが大部分である。

以上ではなだ不十分ながら、ソ連の農業信用制度についての静態的な解説を終わりたい。制度についての立ち入った考察や資本主義のそれとの比較は次の機会に譲るよりないが、農業信用制度の合理化、ことに「経済改革」後の差別融資・決済制

度の改善と関連して、利子と返還条件をいかに決定するかが、今日の最大の論争点であることを付言しておきたい。

注(一) 本項の執筆は次の諸資料に基いた。В. А. Абрамов и другие, *Финансы сельского хозяйства* 1967г. 110 стр. М. К. Шеренев и другие, *Финансы и кредитование сельскохозяйственных предприятий*, 1968г. 416 стр. В. Кочкарев и Н. Федоров, *Кредиты и их роль в укреплении экономики колхозов и совхозов, Экономика сельского хозяйства* No. 7 1969г. А. Брагинский, *Проблемы сельскохозяйственного кредита, Вопросы Экономики* No. 11, 1969г.